

令和2年度北区立ふくろ幼稚園 自己評価報告書

令和3年2月9日

園長 篠澤 恵理

1 自己評価の結果と分析 (A達成 Bおおむね達成 C達成のため改善 D取組不十分)

(1) 教育活動への取り組みに関して

<p>① 教育内容の充実</p> <p>○自立心や生命を大切にできる心身の育成 ・飼育環境の改善や野菜収穫の充実により、「飼育・栽培に関心もつ幼児」についての肯定的評価…90%</p> <p>○夢中になって遊ぶ幼児の育成 ・運動遊具の充実・月1回の運動専門講師指導・週1回以上の異年齢交流による運動遊び・園内研での協議・環境改善により、「幼稚園で自分らしさを発揮している幼児」についての肯定的評価…90% 意欲的に体を動かすことを楽しむ幼児…90%</p> <p>○コミュニケーション力の育成 ・週1回以上の互いの思いを伝え合う活動により、様々な友達との関わりが充実し、「社会のルールやマナーを守る態度の育成」についての肯定的評価…90%</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な環境改善によって直接体験の機会が増え、幼児の興味関心を引き出し、幼児が自ら選び考えて環境に関わる姿が見られた。 ・毎日の体操や遠足での異年齢交流を積極的に行う中で、園児・教職員が学年を超えた関わりが日常化した。 ・預かり保育での運動遊びが充実することは、保育時間内での遊びの発展につながり、夢中になって遊ぶことが定着した。 ・週案や反省の中で教育要領との関連を位置付けて計画でき、就学前教育としてのねらいを意識した保育の展開ができた。 ・様々な相手に応じて関わる必要感のある交流により、互いの思いを発揮する力を育成し、規範意識や道徳性の芽生えを今後も定着させる必要がある。
<p>② 幼稚園教育内容の理解、家庭の教育力向上</p> <p>○教育内容等の情報発信 ・「教育内容に関する理解」についての肯定的評価…90% ・園要覧・ホームページの改善、年3回の保護者会・懇談会等、幼児に必要な経験と育ちの情報発信への肯定的評価…90%</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が幼児期に大切な経験内容を振り返り、子育ての楽しさを実感できる機会をより一層提供するとよい。保護者が預かり保育の保育ボランティアを自主的にできるような体制を構築し、保護者の参画意識を高めるように改善を図り、家庭の教育力向上を推進する。
<p>③ 指導力の向上</p> <p>○学び続ける教員の育成 ・朝会や週案会等で、様々な考え方を話し合える教員集団のチーム力を高めた。「教職員への信頼」についての肯定的評価…90% ・「夢中になって遊ぶ幼児」の育成を目指し、週案にも園内研究主題の視点で記載して、日常的に園内研が実施できるように工夫し、評価・改善につなげた。「幼稚園に行くのを楽しみにしている幼児」についての肯定的評価…90%</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の情報交換・共通理解、地域学校等との交流を通して、互いの保育について意見を交わし、幼児の情報を共有できた。日常的な園内研究を推進し、意欲的な学び合いにつながった。 ・遊びの中の学びを具体化した内容を指導計画に加えて修正し、発達のつながりを意味付けていく必要がある。

(2) 重点目標への取組に関して

<p>①個を尊重する園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、保護者、地域の方、教職員の小さなつぶやきを対話につなげて形にしていくことで、一人一人が自己を発揮しながら、共に学び合い認め合う関係を築けた。 ・ 「幼児の自己発揮」「保護者との連携」「地域との連携」についての肯定的評価…90% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A や地域との連携を密にし、運営委員会・学校評議員会の意見を取り入れながら運営したことは、参画意識を促し、共に考えて実践する流れが構築できた。
<p>②学びの見える園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回以上のホームページの更新や保育内容の写真掲示により、「教育内容の理解」についての肯定的評価…90% 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児が遊びから学ぶ様子など、教育内容をホームページに具体的に示し、教育内容がよく分かったと評価された。 ・ ホームページは、更新回数を月2回程度増やし、一層改善する必要がある。
<p>③教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援児について、朝会で情報共有を図れるように改善し、担任と支援員の発言を促した。担当園児を交代する日程調整を行い、多様な援助の在り方を見直し、全教職員のチーム力向上に努めた。 ・ 年5回の特別支援教育研修と月1回のスクールカウンセラーとの協議では、個々の実態に応じた援助について、共通理解を図った。 ・ 「子どものことを相談すると適切に応じてくれる」についての肯定的評価…98% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝会での共通理解が定着し、全職員で保育を伝え合う姿勢が朝会以外でも日常化された。 ・ 参画意識をもちながら、意見を交わす体制が整い、望ましい対応について、毎朝、組織全体で振り返りながら改善につなぐことができた。 ・ 配慮を必要とする園児への対応は、より一層の努力と理解が必要である。
<p>④時間を意識した働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の残業時間を明確にし、自主的に改善するきっかけをつくった。週案を2週間分作成に改善し、見直しをもてるようにした。 ・ 「ヘルプボード」を作成し、組織力を生かして仕事の分担や効率化を図った。 ・ 棚や倉庫整理など、年3回の改善検討会及び園内整理日を設定し、会議内容の精選や、データ・書類等の整理方法を見直し、時間短縮できる環境を整えた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の働き方についての意識改革は、成果がある。定時退勤日の申請を月4回以上自主的に行うような仕組みをつくる必要がある。 ・ 「ヘルプボード」の作成により、業務内容や進捗状況の把握や、計画的・効率的な職務遂行が実施できた。 ・ 園内整理で環境改善ができた。ファイル整理などの課題を計画的に改善する。

2 改善の方策

(1) 学びの連続性を意識した質の高い教育内容の充実と指導力の向上

- ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を指導計画に記載し、夢中になって遊ぶ幼児の育成を図る。安心感のある環境整備を週案会や園内研究で協議し、日々改善を図る。

(2) 少人数を生かした、日常的な異年齢交流で豊かな心の育成

- ・ 一人一人に応じた援助について、情報共有し、心の通い合う交流を重ねて相手を思いやる心を育む。月1回の園内研修・年5回の特別支援研修の充実を図る。

(3) 教育内容の発信と子育て支援の充実

- ・ 園庭開放の時間延長や、月3回以上の預かり保育を実施、未就園児の会での幼稚園開放日の増設などを行う。教育内容を地域へ積極的に発信し、新入園児数の増加を目指す。

(4) 教員の働き方についての意識改革と、計画的・効率的な職務遂行の実現

- ・ 休暇の取得促進、超過勤務の抑制、退勤時間の可視化、会議内容の精選、データ・書類等の整理、効率的な職務分担などを計画的に行い、時間短縮できる環境を整える。